

各種訓練の紹介

船舶奉仕団による海上物資輸送訓練

—日本赤十字社徳島県支部—

日本赤十字社徳島県支部の船舶奉仕団は、海と山に囲まれた徳島県の厳しい地形条件を考慮し、道路交通網が寸断された大災害時に海上から迅速に救援・救護活動を行うことを目的として、平成20年に結成されました。南海・東南海地震による被害の軽減を目的とした海上物資輸送訓練を毎年行っています。

陸上でのロープワーク等の結索訓練の後、船舶奉仕団員約15名と小型船舶4隻が救援物資の海上輸送を実施、無線通信を行いながら迅速に接岸し、物資等の陸揚げを行いました。常日頃から操船を行っている漁業関係者や地元のパレジャーボート所有者等により構成されるボランティア団体で、航行に習熟しており、みなとオアシスのビジター棧橋にもスムーズに接岸し、棧橋が被災せずに使用できれば災害時にも十分に力を発揮できることを確認しました。

今後も各地での実働的な訓練により、スキルアップを図る一方、他の奉仕団等との合同訓練により、災害時には相互の連携・協力体制を確立し、効果的な救援活動が期待されます。



小型船舶による救援物資等の海上輸送



救援物資等の荷揚げを行う船舶奉仕団員

炊き出し訓練

—小松島地区赤十字奉仕団・小松島市社会福祉協議会—

約30名のボランティアにより、200食分の「あめ湯」と「五目飯」の配給を行いました。炊き出し用の大鍋・ガスコンロ等は、「ミリカホール」（近隣の避難指定場所）に保管している小松島市の防災監理課が所有するものを借りて実施しました。あめ湯は徳島では昔ながらの手軽に作れ、体の温まる生姜味の飲み物です。五目飯はお湯を注いで30分程度おけば炊立て感の味わえるアルファ米という備蓄用の防災食品を使用しました。



あめ湯の炊き出し



五目飯の炊き出し

要援護者安否確認訓練

—小松島市介護福祉課・小松島高校・民生委員等—

地元の民生委員3名、登録ボランティア2名、小松島市職員3名、小松島高校生10名が、6班体制で近隣の要援護者宅を訪問しました。安否確認と共に防災訓練の説明、水・カンパン等の非常食の配給を行う一部の試験的な取組です。高校生ボランティアが要援護者宅で直接会話をして現状を知り、今後の地域防災に必要な課題等を考える良い機会になったと思われます。災害時要援護者支援マニュアルがホームページで公開されています。要援護者の避難支援が円滑に行えるよう日頃からの体制作りが重要です。



安否確認を終えたボランティアからの報告

AED講習会 —小松島市消防本部—

市民向けのAED講習会（所要時間約20分）を計3回実施しました。毎回40名程度の参加者を対象に、被災者に見立てた人形を使って、消防隊員が救助活動の初動動作からAEDの使い方、注意点などを分かりやすく説明しました。訓練に参加した地元住民やボランティアの方々も、AEDの名前は聞いたことがあっても実際に装置を見るのは始めてという人が多く、自動音声に従って操作できるのですが、まだまだその取り扱い方法等の認知度は低いようです。



AEDの使い方を教える消防隊員